

# 外為マンスリーレビューI 北米編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/08/01

## 金融政策が引き続き注目される

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ドル/円</a>	➔	引き続きQE縮小開始時期と規模を睨んで	2 - 3
		予想レンジ: 96.00 ~ 102.00 円	
<a href="#">カナダ/円</a>	➔	方向感が出にくい	4 - 5
		予想レンジ: 92.50 ~ 98.00 円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## USD / JPY

## ドル/円 7月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	99.21円	101.53円	97.58円	97.91円



- ① 5日、米雇用統計は失業率こそ7.6%と市場予想(7.5%)より弱い結果となったが、これが労働参加率の上昇によってもたらされたもので、非農業部門雇用者数が19.5万人増と市場予想(16.5万人増)を大きく上回った。これを受けてドル円は急騰し、101.22円まで上昇した。
- ② 8日、前週末からのドル高の流れを引き継ぎ、朝に101.53円の高値を付けた。しかし、その後は中国株安やソフトバンクの格下げを受けた日経平均の下落などを受けて上げ幅を縮小した。
- ③ 10日、日経平均株価の下落を受けてドル/円は下落。なお、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨では「数人のメンバーは緩和縮小が近く正当化されそうと認識」との記述を受けてドル高に振れるも、「多くのメンバーは緩和縮小には労働市場の改善が必要と判断」「一部メンバーは想定される成長の加速を示す一段の証拠を緩和縮小前に確認したい意向」との記述を受けて失速するなど、乱高下した。
- ④ 11日、オープン前に米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が講演にて「インフレ率と失業率は刺激策の必要性を示唆している」「7.6%という現在の失業率はどちらかと言えば米労働市場の健全性を誇張している」「失業率が6.5%に改善したからと言って、自動的に利上げを行うことはない」などと発言。これを受けてドル売りが急激に強まり、ドル/円は98.26円まで値を下げた。
- ⑤ 17日、発表されたバーナンキFRB議長の半期金融政策報告の原稿において「債券購入のペースは事前に決まっていない」「予見可能な将来において極めて緩和的な政策を見込む」「債券購入は見通しに応じて速いペースや遅いペースで縮小したり、当面拡大したりする可能性」と事前予想よりもハト派な内容だったことを受け、ドル/円は下落。同議長が議会証言を開始するとショートカバーが入り、99.94円まで反発したが、同議長が質疑応答で「米連邦公開市場委員会(FOMC)内では異なる様々な見解がある」FRBはデータ次第で購入額を引き上げる可能性もある」などと証言すると、やはりハト派的であると解釈され、ドル/円は再び軟化した。
- ⑥ 25日、日経平均株価の下落に加え、米紙WSJが「7月30-31日開催の米連邦公開市場委員会(FOMC)で、金融政策の先行き見通しを示す指針である『フォワードガイダンス』をより詳細にするか、修正することを検討する可能性がある」と報じたことを受けてドル/円はストップを絡めて急落した。
- ⑦ 31日、FOMCは声明にて「少なくとも失業率が6.5%を上回り、今後1-2年のインフレが2.5%を上回らないと予想される限り、FF金利の誘導目標を0.0%から0.25%の範囲に維持すると決定」「FRBはインフレ率が目標の2%を継続的に下回っており、経済活動にリスクを及ぼす可能性がある」と認識。ただ、インフレは中期的には目標に向かって戻ると予想している」とし、市場で事前に広がっていた9月量的緩和縮小スタートについての示唆は特になかったため、ドル/円は乱高下した後、97.68円まで失速した。

## USD / JPY

## 今月のポイント

7月のドル/円相場は97.58～101.53円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.4%の下落(ドル安・円高)となった。

この月のドル/円相場は前月から続く、米量的緩和(QE)の早期縮小期待を受けたドル買いによって上旬は上昇。米6月雇用統計の好結果を受けてこの傾向は拍車が掛かり、101.53円の高値をつけた。しかし、その後はバーナンキFRB議長の講演によって過度な早期QE縮小期待が沈静化。さらに月末にかけては31日の米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明発表前のポジション整理によるドル売り・円買いが重石となり97円台まで値を下げた。発表されたFOMC声明ではディスインフレ懸念が示された上、市場が期待していたような「9月の量的緩和スタート」について分かりやすい示唆がなかったことで、方向感も出ず、97円台後半から98円台前半でのみみ合いでこの月は終了した。

8月はまずは、米7月雇用統計に対する注目が非常に高い。FOMC声明で9月緩和縮小開始に対する分かりやすい示唆はなかったが、この声明によって9月スタート観測は後退するに至っていない。米雇用統計の結果が及第点と言えるラインであれば、再び9月緩和縮小を睨んでドル高が進む可能性が高い。失業率が市場予想以上の改善を示せば、量的緩和の「終了時期(来年半ばとされている)」の前倒し観測が拡がり、中期的なドル高圧力をかける可能性があるだろう。米雇用統計通過後は、米国の主要な経済指標などを確認しながら、緩和縮小の時期や規模などを織り込む動きとなっていくと見る。そういう意味ではFOMC議事録なども注目されよう。ただ、夏季休暇に入る市場参加者が増えるため、全般的に方向感が出にくい一方でちょっとしたことで値動きが大きくなる、という傾向が見られそうだ。なお、日本の金融政策は変更期待が高まりにくく、材料視されることは少ないだろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ:96.00～102.00円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
8/1(木)	7月米ISM製造業景況指数		8月米フィラデルフィア連銀景況指数
8/2(金)	7月米雇用統計	8/16(金)	7月米住宅着工件数
8/5(月)	7月米ISM非製造業景況指数		8月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
8/6(火)	6月米貿易収支	8/19(月)	7月日通関ベース貿易収支
8/8(木)	6月日経常収支・貿易収支	8/21(水)	FOMC議事要旨(7月30日・31日分)
	日銀金融政策決定会合(7日～発表)	8/26(月)	7月米耐久財受注
8/12(月)	第2四半期日GDP・一時速報	8/27(火)	8月米リッチモンド連銀製造業指数
8/13(火)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (7月10日・11日分)		8月米消費者信頼感指数
	6月日機械受注	8/29(木)	第2四半期米GDP・改定値
	7月米小売売上高	8/30(金)	7月日全国消費者物価指数
8/15(木)	8月米ニューヨーク連銀製造業景気指数		8月米シカゴ購買部協会景気指数
	7月米消費者物価指数		
	7月米鉱工業生産		

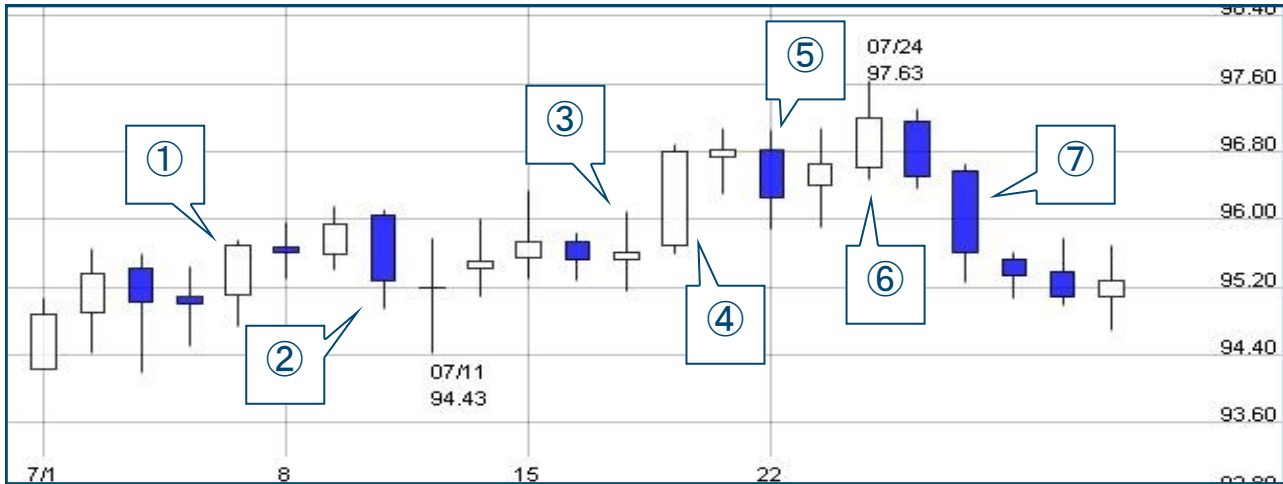
巻頭の特記事項を必ずお読みください。



## CAD/JPY

## カナダ/円 7月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	94.24円	97.63円	94.19円	95.27円



①

5日、加6月雇用統計は、雇用ネット変化0.04万人減、失業率7.1%と予想(0.75万人減、7.1%)ほど弱い結果ではなかった。カナダ/円は、同時刻に発表された米6月雇用統計において非農業部門雇用者数の増加幅が予想を上回り、ドル/円が上昇すると、これにつれて95.75円まで上昇した。ただ、加雇用統計と米雇用統計との比較感から米ドル/カナダドルでカナダドル安に振れたため、やや伸び悩んだ。

②

10日、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録が、市場の想定ほどにはタカ派的な内容ではなかったことからドル/円が下落すると、カナダ/円も連れ安となり、一時95.00円を割り込んだ。さらに、NY市場終了後に、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が「インフレ率(の低さ)と失業率(の高さ)は、一段の刺激策の必要性を示唆」などと発言すると、翌11日の東京市場オープン直後から売りが加速し、94.43円まで下落した。

③

17日、カナダ中銀(BOC)はポロズ新総裁就任後初となる定例理事会を開き、政策金利の据え置き(1.00%)を決めた。声明で「国内経済にかなりの弛みが存在し、インフレ見通しが抑制され、家計部門の不均衡の動向が建設的に進展し続ける限り、現在実施されている著しい金融刺激は引き続き適切となる」との見解が示されるとカナダドル売りが強まった。ただ、「時間の経過に従ってこれら条件の正常化が進むにつれ、2%のインフレ目標の実現と整合をとりながら政策金利も徐々に正常化されると予想」と、将来的な利上げを示唆する文言は維持されたため、急速に買い戻されるなど乱高下した。

④

18日、アジアから欧州市場にかけて株価が総じて堅調に推移したため、カナダ/円も上昇基調となった。さらに、NY市場に入り、米経済指標に好結果が続いた事を受けてNYダウが15500ドル台(当時の史上最高値)まで上伸するとカナダ/円は96.88円まで一段高となった。

⑤

22日、前日に投開票が行われた本邦参院選で、与党が圧勝。自民・公明の両党で参院過半数を獲得し、衆・参のねじれが解消される事になったため、安倍政権による政策遂行への期待から円売りが先行するとカナダ/円は97.05円まで上昇した。しかし、予想通りの選挙結果に円売りの勢いは続かず、高寄りした日経平均が急速に伸び悩んだ事も重石となり、96円台前半まで急反落となった。

⑥

24日、2014年1月末で退任の意向を示しているバーナンキ米FRB議長の後任人事をめぐり、サマーズ元国家経済会議(NEC)委員長が有力候補として浮上(同氏はタカ派的と看做された)した事や、米6月新築住宅販売件数が好結果となった事を受けてドル高が進行。カナダ円はドル/円の上昇につれて97.63円の高値を付けた。

⑦

26日、本邦企業決算への期待が薄れる中、日経平均が下落基調を強めた上に、欧米でも株安が進行。リスク回避の円買いが強まると95.26円まで下落した。米FRBが「フォワードガイダンス」を修正して低金利政策の時間軸を強化するとの思惑からドル/円が一時98円割れまで下落した事も重石となった。

## CAD/JPY

## 今月のポイント

7月のカナダ/円相場は94.19円～97.63円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.0%の上昇(カナダドル高・円安)となった。上旬に、ポルトガルの政局不安(転じて財政改革後退懸念)などから小緩む場面も見られたが、米国を中心に主要国の株価が6月の下落から反発する中、カナダ/円も堅調に推移した。ただ、下旬に入ると、米国の量的緩和縮小を見越して進んでいたドル高が修正され、ドル/円が弱含むとカナダ/円も上げ幅を縮小した。

結果的に7月の月足は陽線引けとなったが、長めの上ヒゲを残した事で上値の重さが感じられるため、目先的には5月高値(101.03円)の奪回に向けた動きは期待しにくい。週足ベースでは26週移動平均線がサポートとなっているが、同線の傾きが上向きからほぼ水平に転じており、強い下値抵抗にはなりそうにない。テクニカル面からは、8月のカナダ/円はやや下値警戒ムードが勝っていると言えるだろう。

材料面を見ると、カナダにも本邦にも特筆すべき注目イベントが少なく、カナダ/円の値動きの決め手となるのは、ドル/円相場の方向性という事になりそうだ。言い換えれば、8月も米ドルが為替相場の主役を張る可能性が高く、カナダ/円は、ドル/円と米ドル/カナダドルの動きに挟まれてもみ合う公算が大きいという事になるだろう。(神田)

(予想レンジ92.50円～98.00円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
8/1(木)	7月中国製造業PMI	8/13(火)	7月米小売売上高
	7月米ISM製造業景況指数	8/16(金)	7月米住宅着工件数
8/2(金)	7月米雇用統計	8/19(月)	7月本邦通関ベース貿易収支
8/5(月)	7月米ISM非製造業景況指数	8/22(木)	6月加小売売上高
8/7(水)	6月加住宅建設許可	8/23(金)	7月加消費者物価指数
	7月加Ivey購買部協会景気指数	8/30(金)	7月本邦全国消費者物価指数
8/8(木)	7月中国貿易収支		第2四半期加GDP
	6月本邦経常収支・貿易収支		6月加GDP
	日銀金融政策決定会合(7日～)		
8/9(金)	7月中国鉱工業生産		
	7月加住宅着工件数		
	7月加雇用統計		
8/12(月)	4-6月期本邦GDP・一時速報		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。